

中野けんせいえんデイサービスセンターひなた 2016 年度総括

1、はじめに

中野けんせいえんサービスセンターひなたは、2016年11月1日に地域密着型デイサービスセンターとして、オープンしました。『ひなた』という名前のように、温かい気持ちでくつろぐことのできる空間になるようなデイサービスセンターを目指していきました。多くのデイサービスセンターが乱立する中で、利用者確保に苦慮しながらもひなたでしかできないサービスとは何かを追及する5か月となりました。

2、「地域から圧倒的に選ばれる施設・事業所」を目指します。

この5か月間、ひなたならではの特色とは何か、ひなたでないと出来ないサービスとはどんなものかを模索していましたが、明確な答えが見つかるまでには至りませんでした。

しかし、利用者様一人一人に寄り添いそれぞれの利用者様に合わせたサービスを提供できるように少しずつではありますが職員一同、様々な工夫をしていきました。

例えば、入浴については、毎回湯船のお湯を交換する、希望者への午後浴対応。食事については、デイサービスで調理をしていただいている為、個別の嗜好に出来るだけ合わせた食事や季節ごとの食事企画も栄養部の協力のもと行われています。レクリエーションについては、カラオケの歌いたい方とカラオケが苦手な方が同時に来る日には4階のラウンジでカラオケを行う、歩くのが好きなご利用者様とお散歩をするなどの対応を行ない、ご利用者様の希望に合わせた屋外歩行訓練を兼ねた外出を行っています。他にも、ひなただからこそ出来る特色づくりをこれからも模索し実行していきたいと思います。

3、「学び・考え・実践する」職員を育成し働き甲斐ある「本音で語れる職場づくり」をすすめます。

月に一度、職場会議を開催しました。しかし、活発な意見交換を行うためには会議の中で何か工夫する必要があるように思われます。

学習会はひなた独自では行うことが出来ませんでした。健生園デイサービスセンターの学習会に参加させて頂きました。

4、「利用者の生活を守り、職員の暮らしを支える」事業所経営を確立します。

まずは、ひなたの存在を知ってもらうために毎月居宅ヘイ新聞の配布、地域への定期的なポスティング、医療生協の班長会議での営業活動などを行ってきました。地域訪問やポスティング活動を通して少しずつではありますが、ひなたの存在を知って頂けるようになったと思います。また、ブログの更新も頻回に行いご家族からブログを見ての利用の問い合わせも2件程いただくことが出来ました。

また、開設準備で必要な物品の購入などもありましたが、日常的に使わない部屋の電気を消すなど当たり前のところから経費削減に取り組んでいきました。

5、事業所が地域福祉の拠点となって、「友の会」と「地域住民」との協力協同を実現します。

1月に職員1名、中野祇園宮とんど祭りに参加しました。

また、地域推進運営会議が半年に一度ということもあり、今年度は開催できませんでした。次年度の4月21日に、第1回目の地域推進運営会議を開催する予定です。

6、ご利用者、職員、地域住民の命と安全を守る為に、施設・事業所の使命を自覚します。

今年度は、デイサービスセンター独自の避難訓練を行うことが出来ませんでした。

7、民医連活動を通じて社会の動きや社会保障、福祉制度の動向にアンテナを高く掲げます。

民医連主催の研修会や行事に参加出来ませんでした。

8、社会福祉法人制度改革に対する理解と対応さらに共同をすすめます。

地域推進運営会議の開催は出来ませんでした。地域訪問や地域へのポスティングを通して地域の方の悩みを聴いたりデイサービスの説明を行ったりしました。また、地域訪問の中でご家族からの虐待を疑われる例があり、地域包括の方に繋げるという事例がありました。

中野けんせいえんデイサービスセンターひなた 2017 年度方針

1、はじめに

本年度より、日常生活支援総合事業が開始されます。ひなたでは介護予防通所サービスを行い、生活支援通所サービスは行いません。生活支援通所サービスを行う事業所もある中、ひなたは地域密着型のデイサービスセンターとしてより地域に根差したサービスを提供していく必要があります。2017 年度は、ひなたにしかできない、ひなた独自のサービスを追及して安定した経営を目指してまいります。

2、「地域から圧倒的に選ばれる施設・事業所」をめざして

〇ひなたならではの特色づくりに努めます。

- ・利用者さんを断らない姿勢を基本に置き、要支援の利用者さんにも入浴して頂けるように努めます。
- ・4月より、月に2回さくら苑よりリハビリ職を派遣してもらいます。リハビリの内容を看護職・介護職で実践し専門的なりハビリが出来るサービスとしてそれを売りにしていきたいと考えます。
- ・4月より電子カルテに本格的に移行し、中野けんせいえんショートとの連携を密にとれるようにします。
- ・年に1回、ご利用者・ご家族・ケアマネを対象とした満足度アンケートを行います。

3、「学び・考え・実践する」職員を育成し働き甲斐のある「本音で語れる職場づくり」をすすめます

- ・職員の個人目標書を作成し職員面談を年2回実施します。
- ・職場会議内で方針の進捗状況を確認します。
- ・事業所内外の学習会に参加できるように情報提供などの支援を行います。

4、「利用者の生活を守り、職員のくらしを支える」事業所経営を確立するために

- ・職場会議内で経営報告を行い事業所の現状を職員全員で把握できるように努めます。
- ・毎月デイ新聞、行事予定表を発行し、居宅に営業を行います。
- ・サービスのパンフレットを新たに作成し、地域へのポスティングを行います。
- ・ブログの更新を月に3回以上行います。

5、事業所が地域福祉の拠点となって、「友の会」と「地域住民」との協力協同を実現します。

- ・地域包括、町内会長、ご利用者家族に参加以来をして年2回の地域推進運営会議を開催します。
- ・地域訪問に全職員で取り組みます。

6、利用者・職員、地域住民のいのちと安全を守り利用者本位のケア実践を進めるために

- ・年に2回、職場会議内で危険箇所点検を行います。
- ・サービス独自の避難訓練を実施します。

7、民医連活動を通じて社会の動きや社会保障・福祉諸制度の動向にアンテナを高く掲げます。

- ・民医連活動に積極的に参加します。
- ・署名活動への協力を行います。

8、社会福祉法人制度への対応と地域貢献活動の取り組み

- ・地域推進運営会議を通して、地域の課題や要望を抽出し実践できることを行います。